

第246号

ほほえみの会

2023.6.11

<2023.6.11 ほほえみの会 Web 例会>

7人が参加しました。

▽2歳半男児、急性リンパ性白血病。発熱がありクリニックに行ったところ、その日のうちに総合病院に行き、こども病院へ入院した。すぐに治療が始まったが副作用のせいか、鬱っぽくなり、笑ってくれなくなった。小6の姉は近所に親の両親がいるので面倒を見てもらっているが夕食は一人で食べている。友達の家で世話になることもあるが母親が帰るのは夜9時過ぎになるので一番心に掛かっている。

同じ病気を体験した親からは、治療中は怒りっぽくなって性格が変わってしまったのかと心配したが、これも薬のせいで治療が終われば治る。逆に困難に立ち向かう力も付く。

きょうだいについては自分も病気の子のことで頭がいっぱいで気にしていなかった。親も大変だけどきょうだいも寂しい思いや心配をしている。家族で力を合わせてほしい。という意見がありました。

▽7月9日（日）はこども病院で「ほほえみの会総会」を開催します。

今回は特に「病棟でのきょうだい児について」話し合いをします。病棟では感染対策のためきょうだいは中に入れず外で待つこととなります。また家で一人待っていたり、親の両親に預けられたりすることもあります。それによってきょうだい児が体調を崩すこともあります。

きょうだい児も病院に来て待つことができる場所や面倒を見てくれる保育士などがいないか、という意見は会でもよく話題になります。

病院としても、小児がん拠点病院として対応が必要でもあります。皆さんで話し合いをして良い方向性を探れば良いと思います。是非ご参加ください。